

◎隔月連載

富所 潤の

FISHIN'GRAPH

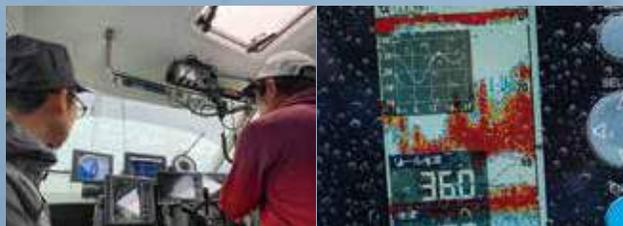
フィッシン'グラフ～見て感じて楽しむ沖釣りライフ

②5 福井県・越前の 落とし込み「タテ釣り」

▲写真奥が東尋坊と雄島。ここから南側がタテ釣りのフィールドになる



▲サビキはハリス・幹糸10号前後、フラッシュャーなどが付いた5～6本バリ仕様



◀濃密な反応。コマセを使わずにサビキ仕掛けをイワシの反応に当てて掛けていくタテ釣りは船長の腕と勘が要求される

▲「空っぽやん……」と藤田吉則船長。この日、九頭竜川河口からイワシは消えていた



▲ウルメイワシが最良のイサ。サビキに掛けて、そのまま落とし込む



▲底付近の反応は小アジ

落とし込み、ノマセ、食わせ。サビキ仕掛けにイワシやアジを掛け、そのまま落とし大型魚を狙う釣りは、西日本を中心に様々な呼び名で人気を集めている。

日本海は福井県の嶺北、いわゆる越前地方では「タテ釣り」と呼ばれ、毎年9月ごろよりウルメを中心としたイワシ類の乗遊で幕を開け、冬まで続く。「タテ釣り」の名の由来は仕掛けを立て、縦に釣るという意味だと思えます。こちらでは春のフカセ釣りで横方向へ仕掛けを出して釣りますから、横に対して縦なのでしょう。

イカ先生・富所潤さんは当地のフカセ釣りやタテ釣りにも明るい。釣り場は沿岸の水深50～60メートル

日本海、越前地方の落とし込み、通称タテ釣りは小さな魚礁をポイントで攻めていく

台に点在する魚礁。三国港より出船した神海丸・藤田吉則船長は九頭竜川河口からサーチを開始。ところが、魚礁をいくら回ってもイワシの反応はなく、探索の旅となる。

越前岬が見える場所へ南下してようやく反応を発見。サビキ仕掛けを落とすとミッドゲームエクスチューン73H190の穂先が持ち上げられ、イワシが掛かったことを知らせる。

そのまま海底まで落とし込みと竿先が激しく暴れ、一気に引き込まれる。しっかりと重さを竿に乗せてからビ

日本海は福井県の嶺北、いわゆる越前地方では「タテ釣り」と呼ばれ、毎年9月ごろよりウルメを中心としたイワシ類の乗遊で幕を開け、冬まで続く。「タテ釣り」の名の由来は仕掛けを立て、縦に釣るという意味だと思えます。こちらでは春のフカセ釣りで横方向へ仕掛けを出して釣りますから、横に対して縦なのでしょう。



◎とみどるじゅん、シマノインストラクター。ティップエギング、メタルリッドゲーム、ライトヤリカのほかタチウオなど、船のライトゲーム、「楽しむ釣り」の最先端に行く。





▲キジハタの魚影とサイズはさすが
西日本で人気の高いヒラメ。
当地では良型の部類



「これで5目を超えましたか。いや、何目でもいいです。とにかく、最高に」

キジハタ、それも40センチほどの大型が顔を出している。
そして昼を過ぎると、いよいよ青物が回り始める。
「船長、ここ、魚礁ありますか」
「ここからは平らやね」
「なら走らせます」
海底から離してもなかなか抵抗をやめない青物に対して、ハリス10号に合わせてピーストマスター2000のドラッグを調整する富所さん。タモに収まったのは4キロほどのワラサだった。
午後になるとイワシの群れはさらに濃密になる。もはやエサはおかわり自由、掛かなければ電動で巻き上げ、反応へ再び落とせば掛かる。
そして同船者のヒラマサに続き、富所さんが再び大きな青物らしきを掛ける。これまでより明らかに重く、長く走ったその正体は、目測6キロを超えるブリであった。

面白いです」
朝方、イワシが空っぽだったのが嘘のように、午後は濃密な反応が出続けた。そしてイワシとともに、底から中層まで、あらゆる魚が活性化した。
「世の中、イワシで回っています」
活性化したのは、富所さんとお客さん、そして船長も同じであった。



▲青物が回ってくると怒濤の食いっぷりになる



クライマックスは目測6キロを超えていそうな丸まる太ったブリ



▲マダイも釣れてくる
▲一番大切なのはウルメイワシ



▲高温時においても強力なパワーを発揮するギガマックスモーターは巻き上げとヤリトリを繰り返す落とし込みも快適にこなす。イカ釣りや青物、電動ジギングにも最適

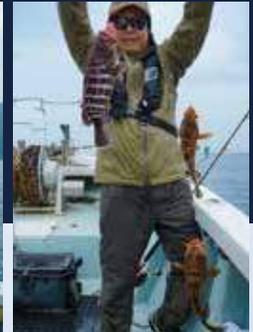


▲PE4号400メートル、3号500メートルのラインキャパシティは幅広いターゲットに対応。強化ギアシステムにより脅威の耐久性を実現した長く付き合えるハイスベックリール



▲タテ釣りではイワシなどベイトの反応が現れるタイミングを計ってサビキ仕掛けを落とすのが理想。ピーストマスター2000に搭載されている探見丸スクリーンは探見丸の情報をリアルタイムで表示。当日も画面右端に反応が出たと同時に仕掛けを落としてイワシを掛けることができた(すべての探見丸搭載船で使用可能)

【ピーストマスター2000】
◎SPEC ギア比=5.1 最大ドラッグ=15kg
自重=690g 糸巻量PE=3号-500m、4号-400m、5号-300m最大巻上長=70cm/ハンドル1回転 ハンドル長=60mm 実用巻上持力=9.5kg 最大巻上速度215m/分



▲目測4キロのワラサ

▲マハタとキジハタのトリプル

▲サビキにウルメが掛かったら落とし込んでいく。期待が高まる時間

相手は1キロから10キロ超級まで様々。Xシートエクストリームガングリップで確実にロッドとリールを保持してファイトを楽しむ



▲落とし込みや青物、中深場などを手持ちで楽しむハイスベックゲームロッド



▲73H190は当日の使用オモリ60号はもちろん、オモリ100～150号にもフィットする操作性とパワーのバランスに優れた73調子

【ミッドゲームエクステーション73H190】
◎SPEC 全長1.9m 2本継 仕舞寸法118.9cm 自重166g オモリ負荷50～150号、カーボン含有率87.3%